

## 四日市版コミュニティスクール報告書（令和3年度総括）

四日市市立下野小学校

校長 木村 弘子

## 1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

①学校づくりビジョンや学校評価、子どもたちの様子等に関して協議し、「地域とともにある学校」の推進を図ります。

②子どもたちの将来に生きる力を育むために、学習支援、体験学習、地域学習、読書活動、クラブ活動において、地域の教育力を活用し、「開かれた学校」の推進を図ります。

## 2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

### (1) 教育活動の実践事例

日頃から、保護者や地域の方から、さまざまなご支援・ご協力をいただき、教育活動を行っています。その地域学習・体験学習などを通して、子どもたちの将来に生きる力を育てています。地域に出かけて学ぶ学習、地域の方を学校に招いての学習をすべての学年が年間を通じて、行っています。

今年度は、コロナ禍において、「新しい生活様式」のもと、例年と同様には実践できないところもありました。

10月22日（1年生は11月5日）に地域連携授業として、それぞれの学年が地域や地域の方と触れ合う授業を新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応を取りながら行いました。

1年生は、体育館で生涯スポーツであるボッチャの試合を楽しみました。下野地区スポーツ推進委員の方2名と競技者の方々と交流を通して、ボッチャのルールや競技のことを学習しました。

2年生は図書館司書さんと図書支援員さんにお越しいただき、しおり作りと読みきかせを行いました。今年のしおり作りのテーマは、「わたし」でした。事前に撮影した自分の写真を貼り、その周りに「わたし」をあらわすものを描きました。できたしおりは学校や家での読書に使っています。そのあと、図書支援員さんに絵本の読み聞かせをしていただきました。子どもたちはとても熱心に聞き入っていました。



3年生は、運営協議会委員長の藤谷さんを講師として招きました。今年度は、新型コロナウイルス感染症防止のため、下野郷土資料館の見学はなしとしました。体育館で1クラスずつ、実際の石臼で、き

な粉づくりの体験をしました。藤谷さんには、石臼や大豆の準備もお世話になりました。全員が石臼をひく体験をさせていただきました。



4年生は、「下野・活き域ネット」の方々4名に来ていただき、下野地区で作られている竹炭の作り方などの説明を聞いた後、竹炭を使ったペン立てづくりを行いました。活き域ネットの方々に教えていただきながら、子どもたちは思い思いの作品を作り上げることができました。

5年生は、下田さん他2名に来ていただき、注連縄づくりを体験させていただきました。横づちで、わらを打つところから始まり、難しいながらも、それぞれが注連縄飾りを作り上げることができました。うまくできなくて困っている子には、できた子が手伝うなど協力して作品を作っていました。

6年生は、よっかいち譜朋苑の職員の方2名に来ていただき、介護の仕事について、その仕事から感じてみえること、この職業についたきっかけなど、具体的にわかりやすくお話していただきました。また、車いすを利用している方の介助の仕方やどう支援したらいいかの実演を通して、相手を思いやることの大切さも教えていただきました。

この他にも、クラブ活動の支援として、卓球クラブ・英語クラブに支援をいただいています。

一昨年度からは地場産業の一つである「下野の梨づくり」について、学校園を使った取組を始めました。梨農園の方の協力の下、土壌づくりをし、6年生児童による苗木の植樹を行いました。その後、6年生は、梨の栽培農家の方をゲストティーチャーとして梨栽培についての歴史や栽培上の作業手順、梨栽培の苦労などの話を聴きました。

さらに、将来に生きるキャリア教育につなげていくために、梨農園から聞き取った内容の交流など、収穫までの流れを学年の段階に合わせて役割を分担し、生活科や総合的な学習の活動として位置付けて、地域との連携活動を深めていくためのカリキュラム作りに取り組みました。



## (2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による

### 効果

- ① これまでに引き続き、学習活動や体験活動への支援、クラブ活動の支援などの取り組みが行われました。運営協議会では、その活動の状況を委員のみなさんに知っていただき、これらの活動が継続し、より充実したものになるようにご意見をいただきました。
- ② 委員のみなさんには、教育活動の様々な取り組みや普段の授業、子どもたちの様子を参観していただき、学校の状況をより具体的に知っていただくことができました。コロナ禍、タブレットを使った授業やZoomを使ったオンラインでの交流学习など、子どもたちが落ち着いて授業を受けている姿を見ていただき、子どもたちの成長の様子を評価していただきました。
- ③ 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動を行うことができなかったり、活動を縮小して行ったりしましたが、地域の方々の協力のもとできる限りのことを行うことができました。

子どもの育成の支援をしていただいています。

## (2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

コミュニティスクールの取り組みを始めて今年度で16年目となり、学校と地域が協働してする取組は定着してきています。『学校の応援団』として子どもたちや先生たちの役に立ちたい。そして、地域もやってよかったと思えて、保護者の安心安全につながっていければいい。」という委員の方々の思いで取り組んでいただいています。地域全体で学校を子どもたちを温かく見守っていただいています。



保護者アンケート「コミュニティスクールとして学校・家庭・地域が協力・連携して、子どもの教育や通学の安全に取り組んでいる」という設問に対して、94%が肯定的な回答をしています。そのことから、登下校の



時の見守りや熱中症対策としての運動会の児童テントの設営、家庭科のミシン学習支援、2年生の算数学習支援（九九）、図書コーナーの整備、図書ボランティアさんによる読み聞かせなどの活動が評価された表れだと思います。

また、4年生の防災探検隊や朝明川水生生物調査の取組なども行っていただきました。このような活動が、コロナ禍にあっても保護者アンケート「学校は地域の文化・自然・人材を学習に取り入れ様々な体験活動を通した授業に努めている」という設問の肯定的回答が、昨年度の94%から97%に増加していることにつながっていると思われます。

児童アンケート「学校生活は楽しいですか」という設問では92%の児童が肯定的な回答をし、保護者アンケートにおいても「楽しく学校に通っている」で95%が肯定的な回答をしています。保護者・地域の皆さんが「学校の応援団」として協働して教育活動にあたっていただいている成果といえるのではないのでしょうか。

## 3 今後に向けて

本校が16年間積み上げてきたコミュニティスクールの取組の成果として、児童の安心安全の向上はもちろん、授業の支援においても地域の方々の協力体制が定着しています。昨年度から、新たに家庭科のミシン学習支援や2年生の算数学習（九九）支援、図書コーナーの整備などを行っていただいています。これらは、学校の提案のもと、子どもたちや学校の状況に合わせて支援していただきました。このように、子どもたちの現状に合わせて、より充実した教育活動をめざし、「地域とともに歩む学校づくり」をさらに進めていきたいと思っています。

